

短期集中利用者の現状

短期集中の利用者数

令和3年	164人
令和4年	208人
令和5年	186人
令和6年	161人 (R6.12月末現在)

合計 719人

※内50人はサービス利用中

短期集中の利用終了者数及び改善率

合計 486人/ 719人 (67.76%)

1年後のサービス利用者 38人/ 486人

※サービス途中終了者 122人

※令和6年12月末時点 (現在サービス利用中も含む)

【はじめに】

山口県防府市

短期集中予防型通所サービス（短期集中）

2021年1月開始 卒業（**幸せます状態**）率67%

リエイブルメントサービス

面談中心でセルフマネジメント力向上を目指す

2019年モデル事業の後追い調査では・・・

卒業生ほぼ全員が1年以上介護サービスを利用せず生活できていたが、生活実態までは把握できていなかった

→そこで、

短期集中卒業生が元気に生活を継続できているのか調査を行った

【方法】 ※データ使用に関しては防府市の承諾を得ている

防府市の短期集中卒業後の対象者に対する取り組み

短期集中で
幸せます状態へ

ケアマネジメントBで
包括担当がモニタリング

『最長1年間』
もしくは
『サービス利用開始』で
ケアマネジメントB終了

このタイミングで
包括担当者に
アンケートを実施

調査期間：2023年4月から2023年12月

対象者：短期集中で**幸せます状態**となりケアマネジメントBを終了した50名（男性11名、女性39名、平均年齢83±5.9歳）

【アンケート内容】

- セルフマネジメントは現在も継続できています
- 生活における活動量の変化はありましたか
- 本人の役割について変化はありますか
- 何らかの疾病による体調の変化はありましたか
- 身体機能の変化はありましたか
- 身体の痛みの変化はありましたか
- 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いませんか

選択肢11問+自由記述2問で構成

- 毎日が退屈だと思いませんか
 - 外出や何か新しいことをするより家にいたいと思いませんか
 - この1年間で資源（本人の資源、通いの場など）の利用に変化はありましたか
 - 生活環境の変化はありましたか
（例：転居、家族構成の変化、ペット、近隣の友人など）
- ※ケアマネジメントB終了理由についても調査

短期集中利用後の生活に関するアンケート

記入日： 令和 年 月 日

氏名： _____ 男・女 歳 担当 _____

ケアマネジメントB終了理由 1年経過・サービス利用開始・合意による終了

短期集中終了月 令和 年 月 利用事業所 _____

No. 質問項目 回答

日常生活・身体機能について

1 セルフマネジメントは現在も継続できていますか はい いいえ

2 1年前と比べて生活における活動量の変化はありましたか 増加・変わらない・減少

3 1年前と比べて本人の役割について変化はありますか 増加・変わらない・減少

4 1年前と比べて何らかの疾病による体調の変化はありましたか 改善・変わらない・悪化

5 1年前と比べて身体機能の変化はありましたか 改善・変わらない・悪化

6 1年前と比べて身体の痛みの変化はありましたか 改善・変わらない・悪化

7 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いませんか はい いいえ

8 毎日が退屈だと思いませんか はい いいえ

9 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いませんか はい いいえ

サービス・資源について

10 この1年間で資源（本人の資源、通いの場など）の利用に変化はありましたか 増加 変わらない 減少

11 短期集中終了時に提案して良かった資源があればお書きください

環境について

12 生活環境の変化はありましたか
（例：転居、家族構成の変化、ペット、近隣の友人など） あり・なし

13 （ありの場合）変化の内容を以下にお書きください

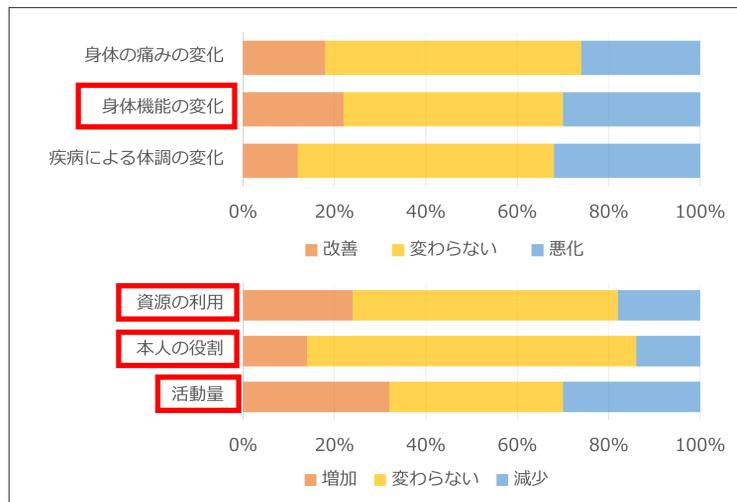
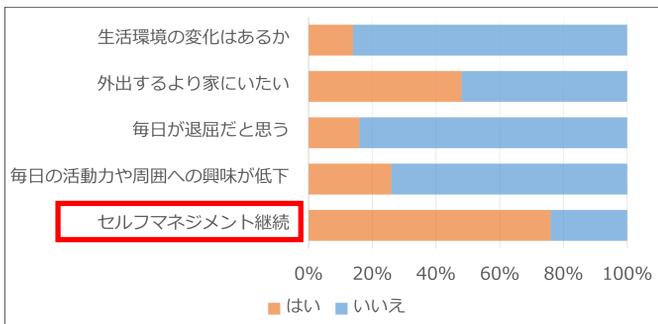
使用したアンケート

【結果】

ケアマネジメントB終了理由

1年経過	43名
サービス利用開始	3名
早期終了	4名

アンケート結果（アンケート回収率100%）



自由記述項目

提案して良かった資源について

住民主体通いの場、地域サロン、自費デイ、調理補助ボランティア、散歩、自転車での買い物、畑仕事、俳句活動サークル等

変化した環境について

体調が悪化に伴う入院、デイサービス利用開始、友人が入院などでいなくなる、施設入所、ペットが増えて忙しくなった、猫、子供との同居解消等

【考察】

防府市の短期集中の特徴

リエイブルメントサービスとして対象者のありたい姿を目指す

面談で生活を振り返りセルフマネジメント力向上を目指す

自分が持つ資源への気づきの促しや地域資源情報を提供する
→対象者の選択肢が増えることを目指す

アンケート結果より

短期集中利用中だけでなく
卒業後の生活に対しても
維持・向上効果がある

支援の方向性が統一され、
ケアマネジメントBが自立生活を
支援する効果を発揮できている

第58回日本作業療法学会 COI 開示
筆頭発表者名：原 直利

演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

【参考文献】

- 国際長寿センター. Theリエイブルメント. 社会保険出版社. 2022
- Mary E. Tinetti, Evaluation of Restorative Care vs Usual Care for Older Adults Receiving an Acute Episode of HomeCare, Journal of the American Medical Association, Vol.287 No.16, 2002

また、

短期集中利用時には

地域包括支援センター担当者と事業所が積極的に情報共有をする

一方でアンケートで悪化している対象者も一定数存在するため、短期集中の質の向上や総合事業の施策を考えていくことが今後の課題である。